

## 平成25年度 第3回 府中市文化財保護報告会議事録

**日時** 平成25年10月16日(水) 午後2時

**場所** ふるさと府中歴史館3階会議室

**出席者** 小澤委員、坂詰委員、猿渡委員、田中委員、中村委員、馬場委員、福嶋委員、藤井委員 以上8名

**事務局** 江口課長、黒澤課長補佐、庄司主査、塚原係長、中山主任、荻野事務職員

**傍聴者** なし

### 1 正副会長の選出について

委員の互選により、会長には田中委員が、副会長には猿渡委員がそれぞれ選出されました。

### 2 審議事項

**会長** それでは審議事項について、事務局の説明求めます。

**審議事項** 「大國魂神社東照宮本殿」の文化財指定について（諮問）

**事務局** （諮問書「25府ふ文発第59号」を読み上げ、添付の写真について説明）

**会長** 本殿はもう文化財に指定されてますね。

**事務局** 大國魂神社本殿は、東京都の指定有形文化財になっています。

**会長** 東照宮の文化財指定が遅れた理由は？

**事務局** 平成19・20年度に行った歴史的建造物の市内の悉皆調査において、藤井先生と研究室の方により、市内の社寺建築・住宅建築を悉皆調査いたしました。その結果、大國魂神社境内では、本殿に次ぐ古さを持った建物であるということが確認されました。また、平成元年の東京都の調査でも注目されている建物でした。

その古さと、東照宮ですから、徳川家と大國魂神社との関係を考えましても、非常に重要な建物であるということで、ここで諮問をお願いするという運びに

なりました。

**坂詰委員** 基本的には指定に賛成ですが、「再建棟札に記された寛保3年」ということだと、その年代で鉄板葺きがあったのかどうか、それは再建年代と矛盾しないのかということが1点。

もう1点は、普通これを指定する際には棟札の附指定か何かで対応するのですが、それについては、どうお考えなのかということ。

もう1点は、御神体の家康像が祀られているのではないか。その家康像をどの様に扱うのかということ、公開可能かどうかです。と言いますのも、東照宮の中の家康像の台座には八角形と四角形とがある。日光のは八角形で、他の東照宮は四角形が多い。その点も確認できるようにした方が良いでしょう。内部のことには今回は何も触れてませんが、内部の御神体とそれにまつわる資料については、私は拝見したことがないのです。その問題についても、この際に規定するなら規定するという点です。以上です。

**馬場委員** 棟札については、川崎平右衛門と依田伊織という府中の近世史の中で、突出した人物2人が連名で再建したという棟札ですので、是非これを付け足りとして一緒に指定したらよいと思います。

諮問理由に「社伝によれば」とありますが、年代を入れる必要はあるのでしょうか。武蔵国屈指の古社であるということが分かれば良いのではなかろうかと。年代については、証明しようのない事だと思うので、学問的な指定の時には無くても良いかなという気がいたしました。

棟札は、少なくとも説明文の中にその2人の人物の名前は入れた方が良いでしょうと思います。

**坂詰委員** それを附にするかどうか問題ということですね。

**馬場委員** はい。

**坂詰委員** そうすると、御神体と合わせですね。

猿渡先生、御神体はどういう具合でしょうか。

**猿渡委員** 私の立場からすると、学術的なものと信仰的なものとを分けて考えて頂かないと困ります。指定に伴って、どういう物かを調べるというのは立場上難しいです。

**坂詰委員** 御社殿を新しくしましたら、当然、御神体の方も新しく対応して、特徴があれば改めて調べていただきたい。これは猿渡先生のお立場とは全く別になります。

**猿渡委員** 陵の発掘と同じで、管理者の立場と考古学者の立場では違います。

**坂詰委員** 何故、そういう事を申しあげるのがかといいますと、江戸時代初期は、家康が祀られる場合には八角形の台座が多いのです。各地域の東照宮に祀られている像が八角形の台座に載っているか、四角形の台座に載っているか。四角形の台座に載っていたら学問的には大きな問題になりますので、それを知りたいのです。

**福嶋委員** 坂詰先生に質問です。先程先生がご指摘になった鉄板葺というのは、江戸時代から施工されていたものなのですか。

**坂詰委員** 私は分らないのですが、柿葺の上に鉄板を葺き付けたのではないかなと思います。いずれにしても剥がしてみないと分かりませんが。

なぜ、銅板にしなかったのか、最初からやるのだったら銅板にしたのではないかなと思います。鉄板ということは、柿の上に組み結んであるのではないかなと、そう思えたのです。

**猿渡委員** 社寺の銅板とか鉄板を修理の時に捲ってみると、柿葺きなどの屋根が多いです。特に銅葺きとなりますと大変な費用も掛かりますので、一時的な雨漏りなどでは、補修の延長で鉄板でやる場合も多いです。捲ってみれば分ります。

**会長** 鉄板は長期的に保つものですか。

**猿渡委員** 銅板葺きでも、50年に一度位は葺き替えます。その位経つと穴が開き、そこから雨漏りがします。

**福嶋委員** そうすると戦後、そういう処置をしたという位に考えてよろしいでしょうか。

**猿渡委員** 私では分かりませんが、本体はしっかりしています。

**藤井委員** 調査はだいぶ前に行いましたので、時期は忘れてしまいました。トタン等の鉄板系の部材の使用は、おそらく戦後です。戦前の可能性も、もちろんありますが。

**会長** 時期はとくに決められないということですか。

**藤井委員** ええ、そうです。文化財修理としての鉄板葺きは、戦後から寺でも普及していました。それで、成立の根拠が棟札になっていますが、棟札はどういう状態で置いてあるのでしょうか。比較的多いのは、棟札を附指定にして指定1件とするのですが、どうでしょうか。

**事務局** 先程、そのご意見をいただきましたので、その方向でまとめていただくというのは如何でしょうか。

**藤井委員** 東京都もそうなのですが、建造物の指定はあまり積極的ではありません。だから、あまり良い返事は貰えないです。東京23区内は戦災で焼けているので、ほとんど例が無いです。出来ればもう一度拝見させていただきたい。前の調査では、1件1件を詳しく見ていないものですから。たまたま調査当時に、これは古い物だと判明したものなので、もう一度拝見させていただければ、鉄板葺きの時期も判明すると思います。

**福嶋委員** 私も指定には賛成です。是非指定されたら良い。

**会長** いつ頃に葺き直したかを、書いて置かないといけない。

**坂詰委員** それは何処かに書いて置かないと、最初から鉄板葺きとなってしまう。文化財保護審議会ですらそういう判断をしたのだということになってしまうので、そこだけはちゃんとしておいてください。

棟札は今、この中にあるのですか。

**猿渡委員** 宝物殿にあります。

**坂詰委員** 出来れば、指定の時は、その写真でも一緒に付けていただいた方が良いでしょう。

御神体は見られないということですが、鏡ということで、外からその鏡を拝見することは出来る。それについても、諮問理由に追加で入れた方が良いでしょう。

そうでないと建物だけを指定したのかということになってしまいます。

**会長** 東照宮は全国にいくつ位あるのですか。

**坂詰委員** すごい数ありますが、後世に由緒が作られた物が多いです。

こちらは由緒正しい物ですから、ことによると御神体の台座は四角形じゃないかもしれません。そうだとすると、日光と同じく本格的な東照宮となります。

**福島委員** 金沢の東照宮は、カラフルですごく立派ですよ。

**坂詰委員** 皆さん競ってますから。上野なんか、今凄いですよね。

**福島委員** 是非、指定をお考えになってください。

**藤井委員** これは、文化財の分類としては、どれで指定するのですか。

**会長** 史跡ですかね。

**藤井委員** こういう建物の指定の場合、2種類のコンセプトがあります。1つは史跡、もう1つは重要文化財です。

**事務局** 武蔵国府跡として、境内全域が国の史跡指定地とさせていただいています。

**会長** 文章表現に関してはどうですか。

**坂詰委員** この答申を、田中先生のお名前で出すのですよね。その時に藤井先生のご意見も伺って、必要な事項を附として入れる。棟札の件を諮問理由に載せれば、単なる建築ではない歴史的な意味付けが加わると思います。

**会長** 社伝に意味はないのですか。

**坂詰委員** 社伝については、私は伝承は伝承であると思っていますから、それについては敢えて申しあげません。

**中村委員** 東照宮の指定ですから、神社それ自体の歴史は極端に言えば、なく

でも良いかもしれない。わざわざ書くことはないと思います。

**福島委員** 諮問理由の最初は大國魂神社の説明になっていますね。

**坂詰委員** 訂正すべき余地があるとすれば、家康の時代に建立されたという事を入れると、余計に大國魂神社の記述になってしまう。

**馬場委員** それと府中との関係を入れた方が良いでしょう。

**事務局** 市の指定理由書の答申に付ける文言を案としてお示ししますので、それを踏まえて答申を作成していただく事でいかがでしょうか。

**福島委員** 大國魂神社についての文書ではなくて、今まで、答申の時に先生がおっしゃったように、ご意見を頂いてそれを答申に反映させるということです。

**坂詰委員** 諮問の文章ですから、答申の中に指摘事項を入れたらどうですかということです。答申の中にこれを盛り込んでいただくということです。

**中村委員** この諮問内容で問題なければ、これがそのまま、それで良いという答申になります。その時の指定理由を付ければよいでしょう。棟札に関する事は指定自体に関わるので、答申に載せる必要はある。

**馬場委員** 答申は、諮問の内容のままで良い訳ではないですね。

**事務局** はい。

**坂詰委員** 答申の期限は本年度の3月31日ですね。

**事務局** はい、本年度です。

**会長** それでは、この審議会で出た指摘事項をまとめたものを下さい。

**事務局** はい。

**会長** この審議については以上とします。次に、報告事項（1）について事務

局の説明を求めます。

## 報告事項（１）武蔵府中熊野神社古墳確認調査の結果について

**事務局** 別添の史料「国史跡武蔵府中熊野神社古墳範囲（周溝有無）確認調査地区の調査成果」を、ご覧ください。

（同資料 1 ページ目を読み上げ）

資料の 2 ページ目は、昨年（平成 24 年度）に調査した時の、図面と写真です。下の写真を見ていただくと、古墳の西側に並ぶような形で遺構があり、白線部分が遺構の範囲を示していて、その北と西側に遺構が広がっています。今回調査したのは、北側の土が盛られてシートが掛かっている部分と、道路側の更に西側部分です。

資料 3 ページ目は、左側が、古墳と土取り穴状遺構の配置の関係を示したものです。黒い部分が、昨年見つかった土取り穴状遺構です。今回は、白い逆さ L 字の部分の調査をしました。更に深堀というトレンチを、いくつか入れております。この南側のちょっと離れた所に J トレンチがあるのですが、そのコの字に見える所に建物遺構がありまして、こちらがおそらく幕末から明治に掛けての建物の基礎跡ではないかと見ています。

右側は拡大した図面です。横線で示しているのが確認した遺構部分です。真ん中部分が白く抜けていますが、ここは全部続いています。実際には大きな穴となっていて、北側と西側に更に伸びていると見ています。

今回、遺物が出土したのは、この北側の S X 1 5 と書いてある辺りです。この広く下げた部分の上層から遺物と、その西側にある T 1 1 と書いてある深掘りしたトレンチで現在表面から 3 m 掘り下げた所から、土器が出土しております。その遺物はここにお持ちしておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

遺物は須恵器の長頸瓶という、いわゆる水瓶とか首の長い壺のような物、今でいう花瓶みたいなもので、お酒などの液体類を貯蔵しておく須恵器の壺です。その破片が出ています。時期を専門の方に見ていただいたのですが、概ね 9 世紀代、9 世紀の前半、平安時代になる遺物の可能性があるとのことでした。が、別の方に見ていただいたところ、8 世紀の終わりから 9 世紀の初めくらい、と若干時期が違う。ただ、古墳が作られたと考えられる飛鳥時代、西暦 650 年前後より 100 年くらい新しい遺物らしいということで、この土取り穴がどういう穴なのか、穴が 100 年間くらい開いていたのかなど、いろいろと考えられ、更に調査をしていく必要があるのではないかと考えております。

いずれにせよ、昨年の調査では出土品も発見されず、時期も全く分らない物

でしたが、少なくとも古代のものだということが分ってきたということです。

北側の広く下げた部分で見つかった遺物は、近世の遺物です。例えば銭貨（寛永通宝）や江戸期の陶器類が出土していますので、少なくとも江戸時代には完全に埋まりきった窪地の状態だったであろうということが、今年の調査で分かりました。これについては、古墳の整備・検討委員会で縁のありました池上先生に見ていただき、古墳との配置関係やこの時期周辺に遺構が無いことから、何らかの形で古墳と係わっていたのではないかと指摘を受けました。全体の様子は分からないので、今後とも調査を進めるよう言われています。

今年の調査結果は以上です。時期的な事が少し分ってきたのは、大きな成果です。

以上です。引き続き報告事項（2）について説明いたします。

## 報告事項（2）武蔵府中熊野神社古墳まつりについて

**事務局** カラーの資料になります。毎年、この時期、10月若しくは11月頃に古墳保存会の方が中心となって、古墳まつりを実施しています。

昨年はふるさと祭の一環で実施していましたが、今年は古墳まつりメインで行うことになりました。10月19日（土）、20日（日）に行う予定です。こちらは4回目になり、かなり内容も充実しています。

19日の夜の古墳のライトアップ、ステージでの古墳コンサート、雅楽や時代語り・篠笛・ジャズの演奏です。市内ではあまりない内容のコンサートで、好評を得ております。

20日は古墳パレードで古代の衣装をまとうて神社の参道を歩いてステージまで行きます。その後、古墳コンサート、それから地元自治会や商店会の方々の出店で盛り上げていただきます。

資料の裏面に、プログラムや簡単な内容紹介が載っております。

ちなみに昨年は府中西高の合唱団とか太鼓のグループなど地元の方々が出演されました。今年は、市民コーラスや古墳のすぐ北側にある府中あおい幼稚園の年長組さんも、出演していただけるとのことです。その他、テレビ等で活躍されている二胡と琵琶の演奏者の方も出演していただきます。

地元とプロの方を織り交ぜて、どなたが観ても楽しめる内容にということで頑張っております。

以上です。続いて、報告事項の（3）について説明させていただきます。

## 報告事項（3）府中の発掘お宝展について

**事務局** 例年10月終わりから11月の頭に掛けて実施しております。今年は「府中の発掘お宝展2013古代人の祈りの世界」というテーマで11月1日から11月7日までフォーリス1階の光と風の広場で行います。

内容は、縄文時代から近代の自然と神や仏等への祈りが綴られた物を展示し、解説と併せてご覧いただきます。

これまでに発掘した出土品の中から、お経が書かれた小石とか銅鏡とか、持念仏と呼ばれる小さな木製の仏像、そういった祈りに関連したもので、普段は博物館等で展示していない物を一堂に会して見ていただき、市内の出土品から、府中の歴史を考えていただこうと思っております。

11月3日(日)には、ギャラリートークということで、展示物の解説等を行います。

そういった内容で、市ホームページ及びポスター・チラシ、広報等で宣伝させていただきます。

以上です。続いて、報告事項の(4)について説明させていただきます。

#### **報告事項(4) 旧陸軍調布飛行場白糸台掩体壕特別見学会・展示会について**

**事務局** 東京都文化財ウィーク2013関連企画事業で、府中市史跡旧陸軍貼付飛行場白糸台掩体壕の特別見学会・展示会を行います。

白糸台掩体壕は、既に見学会にお越しいただき内容は十分ご存知かと思いますが、いろいろな方に知っていただくために、こういう機会に見学会を開き、パネルの展示会を行っています。

文化財ウィークということで、11月3日の文化の日に午前10時から午後4時まで市の職員が解説を行い、現地に常駐していろいろな方のご質問に答える準備をしております。

それから、第18回調布飛行場まつりが、10月20日(日)に調布飛行場で行われます。調布市、三鷹市と合同で府中市も参加し、調布飛行場の中の格納庫の一角を借りて、三市のパネルを並べ、それぞれ担当の市の職員が説明するという企画です。

三鷹市、調布市、府中市がバラバラで行うと時間のない方は聞けないということで、文化財ウィークの特別展として合わせて三市の事を知っていただきます。調布飛行場は三市に跨った場所なので、丁度良い機会かなと思います。

展示解説は、市の職員が午前10時、11時、午後2時に行います。その他、掩体壕を守る保存会により、何故側に掩体壕を作ったのか、見学者を案内する事も計画されています。準備は今週の日曜日なので、ほぼ終わっています。

以上です。

**会長** 白糸台掩体壕の特別見学会は、いつ行いますか？

**事務局** 11月3日です。

調布飛行場まつりの会場は、調布飛行場内の格納庫になります。

**会長** 調布飛行場まつりは、いつですか。

**事務局** 10月20日（日曜日）です。

**会長** 時間はいつですか。

**事務局** 職員が常駐するのは、午前10時から午後4時までです。解説は、午前10時半と午後2時の2回を予定しています。ただし、見学者が多いなど状況によっては、合間でも解説をすることはあります。

**会長** PRはどうやるのですか。

**事務局** 広報とこのチラシ等で行います。

**会長** 会場へは何処から入るの？飛行場の入口から入るの？

**事務局** 調布市の方に飛行場の中心部がありまして、そちらから入るようになると思います。府中市側は滑走路で、立入はできません。

**馬場委員** 西調布の方から入れますね。

**事務局** そうですね。迂回していただくことになると思います。当日は飛行場まつりということで、飛行場の方で案内看板を用意していると思います。まつり自体の中心も、飛行場の管制塔や格納庫のある周りで行うことになります。

西調布の駅から天文台通りをまっすぐに行き、左側が正面入口です。そちらがメイン会場の入口になります。

**馬場委員** チラシの作り方ですが、これは何線なのか入っていないし、分る人は分るというチラシになっているようですが。京王線とか西武線とか書いてないし、飛行場もあんな広い場所の何処から入ったら良いか分からない。親切なチラシを作った方が良いのと思うのですが。

**会長** 白糸台の保存会は、何人位いるのですか。それなりに機能していますか？

**事務局** 20人前後だと思います。かなり活発に活動されています。機会があれば、見学会などのお手伝いもしていただいています。

**会長** 調布飛行場まつりとは、見学会みたいなものですか？調布の掩体壕との関係は？

**事務局** 掩体壕の市の指定や保存について、最初から要望・助言を頂いています。掩体壕と一緒に活動されてきたというところです。

今現在、調布飛行場まつりの当日に当館からお願いして出てもらうなど、11月3日午後にご協力いただける形で、私達と連動して活用事業は進めています。

保存会の皆さんは、会の名前を「保存・活用する会」に変えてくださいとお願いしているくらいですので、そういう意味では積極的に活動されている状況です。

**福嶋委員** 熊野神社古墳についての質問です。かなり広い面積を掘っていますが、前はどのような状況だったのですか。

**事務局** 元々、民間の住宅がありました。この範囲は古墳公園として整備していくということで、可能な方に移転していただき、市が買い上げるという形です。それで広がったのがこの枠の範囲です。

**福嶋委員** それは良いですね。

**事務局** 公園として、古墳と神社を一体化した整備をしています。

**福嶋委員** 他の部分も調査する予定なのですか。

**事務局** 写真にある駐車場やその奥の住宅も、条件が合って移転していただければ、調査して整備する予定です。

**会長** 古墳は真北に向いてないね。

**事務局** 古墳の軸線は磁極に近い方向で、北より約7度西に傾いています。熊野神社の参道が、逆に東に振っています。古墳の向きと神社の参道の向きの

間くらいが、真北に近いラインになります。

**会長** 他に何かありませんか。それでは審議会を終了します。

次回は平成25年度の府中市文化財保護審議会の第4回です。

日程は、平成25年12月11日（水）の午後3時30分からとなりました。

期日が近づきましたら、委員の皆様のご都合を合わせ、実施することといたします。